

■県を超えてつながり学び合う！～香川県・佐賀県内社協 合同研修会を開催しました～

12月17日(水)県社会福祉会館Fukkuにて「第2回香川県・佐賀県内社協合同研修会」を開催しました。▶これは、両県の市町村社協職員を対象に、各地域での取組みの共有と意見交換を通じ、今後の活動の充実・強化を図ることを目的とし、昨年度は香川県にて開催したものです。▶研修会では、日本社会事業大学名誉教授の大橋謙策氏より「社会福祉の転換期における社協の位置」をテーマに講義いただきました。続いて、佐賀県多久市社協、香川県東かがわ市社協が、福祉施設や企業などの関係団体との連携を活かした地域福祉活動の実践発表を行いました。▶その後のグループ討議では「私たちに今できること、やるべきこと」をテーマに、他地域の取組みを参考に、自地域の地域福祉活動をより活性化するヒントを探りました。



【互いの地域の取組について、真剣に意見を交わす参加者】

「社協の認知度向上のため、全戸訪問を行う」「地域福祉活動への若い世代の参画促進に向け、SNS活用を積極的に行う」など、さまざまなアイデアが交わされ、志の高い職員同士が互いの経験や思いを語り合う熱心な意見交換が行われました。▶最後には、コメンテーターの大橋氏、全社協 地域福祉推進委員会委員長で、香川県琴平町社協会長の越智和子氏から、「地域の強みを活かしながら、社協の“よきパートナー”として地域住民や行政などの関係機関と信頼を築くことが大切」と温かいアドバイスをいただきました。▶本会としても、こうした学びと交流の場を通じ、地域福祉を担う社協の活動を引き続き支援してまいります。

■障害のある方の就労と社会参加を目指して ～「福祉事業所パネル展及び販売会」の開催

12月14日(日)佐賀駅前交流広場にて「福祉事業所パネル展及び販売会」を開催しました。▶このイベントは、障害福祉事業所を紹介するパネル展示や事業所で生産された商品を通じて、働く障害のある方への理解を深め就労と社会参加を促進することを目的としています。▶当日は、普段目にする機会が少ない事業所での活動の様子を紹介するパネル展示や、日々の仕事の中で作られた野菜やアップルパイ、クッキーなどのお菓子類、寄せ細工などを販売するブースが設けられました。▶会場には、駅を利用する方が足を止めて立ち寄られる姿も多く見られ、パネルを熱心に見入る方や、職員から説明を受けながら商品を手取る姿が見受けられました。障害のある方が地域のなかで働き、ものづくりに取り組んでいる様子を身近に感じていただく機会となりました。▶本会では、このようなイベントを通じて、事業所で作った商品の魅力や付加価値を高め、工賃アップにつながるよう支援していくとともに、障害のある方の就労や社会参加を支える取組への関心が広がることを期待しています。今後も、地域と福祉がつながる場づくりを大切にしながら、障害の有無に関係なく、ともに支え合い、いきいきと暮らせる地域社会の実現に向けた取組を進めていきます。



【設置した販売ブースで商品の紹介説明を行うスタッフの様子】



■介護の仕事へ、確かな一歩 ～鳥栖三養基地区介護の仕事就職相談会を開催しました～

12月12日（金）サンメッセ鳥栖にて「令和7年度 鳥栖三養基地区介護の仕事就職相談会」を開催しました。▶本相談会は、本会と鳥栖地区広域市町村圏組合の共催により、地域における介護人材の確保と就職支援を目的に実施したものです。▶相談会は、同組合が実施する「自立支援訪問型サービス従事者養成研修」終了後に開催され、修了生33名を含む計37名の求職者が来場しました。会場では6つの介護事業所が相談コーナーを設け、仕事内容や職場環境について熱心に説明いただきました。実際に働くイメージが持てたことで、早速、本会福祉人材センターへ登録をされ、事業所への面接希望など、参加求職者にとって就職に向けた大きな一歩につながりました。▶昨年の面談者数15名を上回る延べ27名が面談を行い、参加者からは「丁寧に説明してもらえた」「話しやすい雰囲気だった」との声が寄せられ、事業所も定期開催を希望されるなど、非常に有意義な機会となりました。▶今後も、地域の介護現場を支える方々と事業所をつなぐ架け橋として、継続的な支援に取り組んでまいります。



【各事業所ブースにて活発に面談が行われた】

■佐賀県共同募金会 令和8年(2026年)版 新作カレンダーバザー展を開催しました！！

佐賀県共同募金会では、毎年歳末たすけあい募金を実施しています。歳末たすけあい募金とは、戦後、困窮者の生活を支援するために始まり、現在でも支援を必要としている人々が、新たな年を迎える時期に安心して暮らすことができるように行っている募金活動です。▶今回、その一環として12月20日（土）・21日（日）の2日間にわたり「新作カレンダーバザー展」を開催しました。▶毎年開催しているこのバザー展は、県内の法人会員企業をはじめ、多くの企業・団体から寄贈いただいた令和8年（2026年）版新作カレンダーを頒布するチャリティーバザーで、今年も2,000点を超える多彩なカレンダーを寄贈いただきました。当日は開場前から行列ができるほど多くの方々が来場し、会場内はお気に入りの一冊を手取る方々で終日大盛況となりました。▶このバザーの益金については、全額を県内の民間社会福祉施設等を利用される方々がクリスマス会や新年会、もちつき会といった行事を通して、安心して楽しく新年を迎えるための大切な費用等に活用させていただきます。



【多くの来場者でにぎわう会場】

■コロナ特例貸付フォローアップ支援事業に係る情報共有会議を開催しました ～社協と自立相談支援機関の連携強化を目指して～

本会では、コロナ特例貸付借受人へのフォローアップ支援に取り組んでおり、今回初めて市町社協や生活に困窮されている方を支援している自立相談支援機関の担当者との情報共有会議を12月24日（水）にFukkuで開催しました。

▶借受人世帯の安定した生活を目指していくための今後の支援の進め方についての目線合わせが目的です。▶午前の部は、本会からフォローアップ支援の現状と課題、そして今後の対応案等について説明を行い、家計改善支援事業を県内4市10町で展開する社会福祉法人グリーンコープより事業内容ならびに、開発された家計リスク点検アプリについて紹介されました。▶午後の部は、「市町社協と自立相談支援機関の連携」をテーマに、佐賀市社協・小城市社協から事例発表いただき、後半は免除決定後や免除対象外の借受人へのフォローアップなどをテーマに、グループで意見交換しました。▶これまでの約2年半の取組を振り返り、貸付世帯との関係づくりの難しさが課題に挙がりました。今後の取組としては、各団体の強みを活かし連携する必要性を再確認するとともに、これまで以上にプッシュ型でのアプローチを強化していきたいと多くのグループから意見をいただき、これからの進め方が明確になりました。▶今後も市町社協及び関係機関が連携し、借受人世帯へのフォローアップ支援がより効果的に実施できるよう積極的にバックアップしていきます。



【グループ全員で今後のヒントを探る時間となりました】